

## クロアワビ稚貝の放流追跡調査（昭和48年度）

小島 博・中久喜 昭  
谷本 尚 則

本年度は、由岐町阿部ウマガマ地先に造成してあるタートルブロックによる稚貝保護場へ殻長10-28mmのクロアワビ稚貝を放流した。放流稚貝の追跡調査と併行して、天然産クロアワビの採集を行ない、人工的に採苗したクロアワビの天然漁場における生長、すみ場などを天然産クロアワビのそれと比較した。

### 稚貝放流

- 1) 材料 放流に用いた稚貝は昭和47年11月上旬に徳島水試で採苗したクロアワビ稚貝、5,100個である。餌料としてアオサを与えたため殻色は緑で、天然貝と容易に区別される。
- 2) 放流 放流地点は2ヶ所（A, B）とした。A, Bはタートルブロックからほぼ10m岸側（水深1m）で、A, B間の距離は15mとした。昭和48年6月26日、防虫網を張った金網かご（35×40×66cm）の中に径20cm程の石を敷き、その中へ稚貝を投入した。かごの側面下端に2cmの隙を開け、稚貝が容易に外へ匍匐できるようにしてある。放流貝の殻長別放流数を表1に示す。稚貝の平均殻長は16.1mmである。

表1 放流稚貝の殻長別放流数

殻 長	放 流 地 点		合 計
	A	B	
10 - mm	6	1	7
11 -	17	7	24
12 -	23	13	36
13 -	45	18	63
14 -	23	20	43
15 -	31	19	50
16 -	15	21	35
17 -	13	18	31
18 -	13	15	28
19 -	1	18	19
20 -	6	13	19
21 -	4	8	12
22 -		11	11
23 -		10	10
24 -	2	3	5
25 -		2	2
26 -	1	1	2
27 - 28		2	2
平均殻長	14.8 mm	17.4 mm	16.1 mm

## 結 果

### 1) 追跡調査

放流貝の再捕数、放流時および再捕時の平均殻長は表2に示すとうりである。放流3ヶ月後の調査

表2 放流貝の生長

調査年月日	再捕数	殻 長 mm	
		再捕時	放流時
昭和48. 9.21	7	19.2	17.4
10.23	0	—	—
12.10	3	24.4	14.9
49. 1.17	2	32.0	23.4
2.14	0	—	—

によると、タートルブロックの岸側から5個、沖側から2個再捕した。平均殻長は19.2mm（放流時17.4mm）である。4ヶ月後の調査では発見できなかったが、6ヶ月後に4個再捕した。平均殻長は24.4mm（放流時14.9mm）である。7ヶ月後の調査では2個再捕し、平均殻長32.0mm（放流時23.4mm）である。8ヶ月後の調査では再捕できなかった。

### 2) 天然産稚貝の採集

天然産稚貝の採集結果は表3に示すとうりである。

表3 天然産クロアワビの生長

調査年月日	測定数	平均殻長
昭和48.5.24-25	12	18.2mm
9.21	3	22.3
10.23	8	27.9
12.10	12	29.7
49. 2.14	5	11.0

2・5月のクロアワビ稚貝の発見場所は水深3m以浅の小型転石下、転石や岩礁の重なった狭い間隙部であった。10月の調査では、水深2-4mのやや大きな転石下などから見い出され、分布域はそれ以前と比較し広がっている。また、10月の調査の際に、水深5-6mの場所からメガイアワビ4個体（平均殻長20.5mm）を採集した。

## 考 察

由岐町阿部ウマガマ地先での放流クロアワビ稚貝は、そこに生息する天然産稚貝に類似の生長を示した。前年度の放流追跡調査を行なった日和佐町友垣、海南町浅川に比べ、長期にわたり再捕された。また3ヶ月以降の放流稚貝のすみ場は、観察例が少なく多くは明らかにできなかったが、ほぼ天然産稚貝に類似すると考えられた。

また、昭和48年2月に日和佐町友垣へ放流した稚貝（殻長3.6~9.8mm）は、その後の調査で全く発見できなかった。

放流稚貝は、その後の追跡調査で思った程再捕されない。その原因として、放流後の死亡が考えられ、死亡原因を調査し、その対策を必要としよう。